

会議録

会議の名称	平成27年度 西東京市青少年問題協議会 第4回
開催日時	平成28年1月25日（月） 午後2時から午後3時30分まで
開催場所	西東京市役所 田無庁舎 3階 庁議室
出席者	委員：石井委員、金原委員、小峰委員、佐藤真人委員（代理出席）、住田委員、高橋委員、西嶋委員、西原委員、納田委員、早川委員、山崎委員 事務局：子育て支援部長 金谷、子育て支援課長 中尾根、児童青少年課長 齋藤、子育て支援課調整係 阿久津、栗林、 欠席者：遠藤委員、佐藤潔委員、田口委員
議題	1 今期のテーマの調査方法について 2 専門部会の設置について 3 その他
会議資料の名称	・会議次第 資料1 テーマの調査方法等について
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>・第2回及び第3回会議録の承認</p> <p>・審議</p> <p>1 今期のテーマの調査方法について</p> <p>○座長： 今期のテーマの進め方について、まずは調査方法からご意見を聞きたい。</p> <p>（事務局から資料1と専門部会の設置について説明）</p> <p>○A委員： ハンドブックに出ている団体や子育てフェスタの参加団体は乳幼児を対象とした団体が非常に多い。あくまでも対象は青少年なので、調査団体としては市内の中学校9校のPTAはいかがか。青少年世代の親として現場を知っている。現状を知ることから、そういう子たちを支える地域資源は何があるのか等と、波及する形がいいのではないか。</p> <p>○座長： 青少年の年齢については前回の会議で協議して、低年齢からやると確認している。</p> <p>○B委員： よく「地域」と使われるが、定義がない。昔は地域そのものが組織になっていた。今は地域の中の共感する2,3人のみが行動している。共通の目的を持って何かを行っていくことで地域が活性化する。地域とはどういうもので、地域の何をどうするんだというところを掘り下げていく形で問題が取り上げられれば、議論も広がっていくと思う。</p> <p>○座長：</p>	

皆さんは地域をどのように捉えられているか。

○C委員：

こういう場合の地域は、地理的な意味での地域ではなく、同じ文化圏、通学圏、一定の範囲の中の間人関係を指すんだと自分の中で定義している。

地域力の低下は即ちそこに住む人たちのつながりの希薄さと捉えている。

○D委員：

自分の町内会は高齢化で人が集らない。また、プライバシーが重要視されて、人の家庭に踏み込むようなことはできない。市内全体で自治会、町内会がどうなっているか。

社会福祉協議会のほっとネットステーションでは、人と繋がりたい人のために自宅を開放していて、様々な理由で保護監察対象者を家に上げにくいという保護司も利用できる。

自治会の関係や青少年に対するケアの体制について調査したい。

○座長：

居場所というのは、場所だけを作っても子どもたちは集まってこない。そこで核となる人間に魅力を感じて集まってくることが多いので、人も場所も必要なのではないか。

○E委員：

夜間開放型児童館の開設時は、夜間に子どもたちを遊ばせることを心配する面もあったが、現実的にはNPOの方々が熱心に対応してくださりありがたいと感じている。地域で子どもを見守るという点では、自治会のない地域で、学校が避難所になった時に地域の人たちが学校という施設を活用してお互いに助け合う組織を立ち上げているところだ。子どもや地域の方が目に見えるパイプ作りとして有効になっていくと思う。

○座長：

F委員はいろいろな地域を見ていてどんなことを感じるか。

○F委員：

今回のテーマの対象となる小学生以上、学齢期の子どもたちの支援の資源とそれを支える活動を調査していく中で、市の抱える問題が出てくるかと思う。

ハンドブックの掲載団体のうちで、幅広い年齢を対象にしているホームスタートや子ども劇場は調査対象としていいかと思うが、市内にたくさん点在している住民の自主的な活動は、ハンドブックにはほとんど載っていない。載っているもの以外で今、皆さんが動いていることを調査するのはどうか。社会福祉協議会は子どもから高齢者までを対象に事業展開をしているので、何かをしようとするれば必ず社協の事業にぶつかる。それをまとめることこそが青少年問題協議会のやることなのかなという気がする。

○C委員：

仕事柄小中学生と会う機会が多いが、どこかに相談に来る方々はそんなに心配いらぬ。問題なのはそこに相談にすら来ない親御さんと子どもたちで、こういう見えづらい人たちの状況を知るには、PTAを通じた調査が一番実態に即した回答を得られるような

気がする。

○座長：

PTAの組織は、小中学校全部にあるのか。

○G委員：

全校にあるわけではない。活動は各小学校によってさまざまに地域性もあり、見えてくるものは多分違うと思う。

子ども食堂はすごく地域に根差している活動なんじゃないかなと実感している。

○B委員：

自然に絆ができたり、つながることができたりするような仕組みが必要だと思う。今調査するというのと、仕組みづくりをどうするかということはまた別だ。何を調査対象とするかということが大事ではないか。

○H委員

わたしのまわりでは、小中学生が夕方に出歩く姿をそれほど見かけない。夜間開放施設を利用しているのは同じような人なのではないか。限られた子どもたちのための居場所の支援ということになるのか。

○C委員

わたしが利用する時間帯はコミセンに子どもがいるケースが多い。

○H委員

いつも同じ子だけが利用していて、ほかの子どもたちは家や塾にいるのではないか。

○C委員：

誰かに迷惑かけるでもなく、そこに行けば知り合いがいるので行くのだろう。

○H委員：

そこにグループができていて、いつも同じメンバーだということは、基本的には市の子どもたちの大部分は、ほんとうは家にいるのではないか。

○G委員：

わたしは、子どもたちの殺伐とした言葉が大変気になっている。今の子どもたちはボキャブラリーが少なく、自分の感情を伝えるのも下手だ。人間関係の希薄さもある。見守る大人たちが子どもにうまく声かけできたら、もうちょっと人間関係もスムーズに行くのではないかと思う。問題はいつも夜集まっている特別な子たちではなくて、普通に塾に行って過ごしている普通の子が、一番危険なような気がする。

○I委員：

言葉遣いの乱れはある。親自身がきれいな言葉遣いをして子どもに伝えるしかないと思う。言葉遣いだけでなく、家庭の教育力というのは問われるていて、それをいかにあ

げていくかということを考えているところだ。

○G委員：

子どもたちは地域の大人との接し方がわからないので、昔と比べて馴染むまでに時間がかかる。信頼関係を築いて打ち解けたらいろいろ話はしてくれる。

○I委員：

わたしは教育委員会で活動をしていて、地域の方はいろいろ協力してくださっている。避難場運営連絡協議会もその例だ。そこで拾いきれない子どもたちが問題になる。成功例、プラスの部分も調査するといいいのかなと思う。

○B委員：

昔は、地域の中に学校があった。今は学校の中に地域がある。校長先生が地域と密着した行動をとると地域の人はずいぶん変わるが、学校の中に地域があると、学校に行っても遠慮する。

○座長：

わたしも26年間保護司をしてきて、子どもたちの言語能力がものすごく下がっているのを実感している。警察に届いている子どもたちの話はどうか。

○J委員：

表面に出てこない子どもについては情報の共有化が一番大事だと思う。月に1度警察と管内の各学校の生活指導の先生方とで会合を開いているが、具体的な事例を伺うと驚くことが多数ある。そういう情報を共有して、住んでいる周りの方々等にも周知できれば、早めに手立てができると思う。

○D委員：

目に見えないところで一番問題になっていることは、SNS社会をどう生きるかだ。ネットいじめは大変大きな問題で、昔は学校でいじめられても家に帰れば解放される時間があったが、今はネットで朝から晩まで縛られる。地域でもネットトラブルにどのように対応しているのか全く分からない。それについても問題提起としたい。

○G委員

小学校のうちから行事等で顔見知りになっておいて喋れる関係を作っていれば、高校生・大学生になっても私たちに話しかけやすいと思っている。地域で何かをやる時に小学生・中学生を巻き込んでやるというのは大切だと思う。

○A委員：

中学校からずっと続いているトラブルでも、卒業してしまうと学校ではどうしようもない。その場合どこが管轄するのか。青少年はそういった意味でも難しい立場に置かれている。地域で人がつながるのは大事だ。

○H委員：

地域が学生たちを使うような社会貢献活動的なものがあるなら、それをモデルにした活動を推進するのはいかがか。例えば、高校生や中学生を地域やマンションの防災の担当者にすると、子どもたちの中に、自分は頼りにされているという意識が生まれて生活感覚が改まる。そういうことを皆さんの中の発想の一つにしたらいかがかと思う。

○座長：

そのお話は絶対必要だと思う。避難所運営連絡協議会を作ったときに調べたら、その地域に自治会がなかった。災害時の情報発信や地域の方の誘導に不安がある。

地域の中の組織づくりというのは、地域を活性化させて活動力を上げることなのだと思う。

○B委員：

子どもとかお年寄りとか、いろんな人がいての地域だ。子どもたちにも役割を与えて、いかに人を活用するか、ということだと思う。

○G委員：

小学校で、昨年育成会の餅つきと避難所訓練を同時に開催して、中学生ボランティアを例年の倍くらい募集した。地域の方の案内係をやってもらい、コミュニケーションがあつてとてもよかった。皆さんの意見を聞いて、もっと役割を用意したり、彼らに発案してもらったりしてもよかったと思った。

○座長：

ボランティアをしていると進学のとくに点数をもらえるという話を聞くが。

○E委員：

3年生になると内申書や自己申告カードのために手を挙げる子は確かに増える。

○G委員：

それでも参加してくれたらうれしい。

○座長：

きっかけとしてはいい。

○A委員：

今の中学生世代、青少年に役割を与えるというのはとてもいいキーワードかと思う。学校や地域の自治会だけではなく、神社等のつながりも育ててもらえる場ではある。

○B委員：

機会を作るのが大人の役割だろう。夏休みに小学校で地域と父兄とでやっていたお祭りに去年初めて子どもたちも入れたら、全く形が変わった。子どもの能力はすごい。

○座長：

いろいろご意見が出たが、ほかに話しておきたいことは。

○I 委員：

興味本位で申し訳ないが、警察の方がいるので訊いておきたい。今、派出所の警察官が一日に何度もパトロールをしてくれているのは、定期的な見回りなのか。

○J 委員：

不審者情報は110番が入るし、ほかにも毎日のように直接相談ごとがある。相談はすべて文書で決裁を残す。上長まで相談の内容が上げられ、対応についての指示もある。

ベースとなる勤務表はあるが、交番にいる警察官には自分が担当している地域があつて、受持ち責任があるため、責任を持ってパトロールをするようにしている。

○I 委員：

回っている警察官にいろいろ質問したりしてもいいものか。

○J 委員：

つながりが大切であるし、大丈夫だ。

2 専門部会の設置について

○座長：

ほかにご意見はないようなので、議題(2)に入る。事務局から説明を。

○事務局：

専門部会は例年、協議会の委員のうち、教育委員会を含めた行政機関の委員の方と市議会議員の方を除いた、いわゆる地域の方・市民の方を委員としてやってきている。今回もそのメンバーでいいか、そのメンバーによる専門部会を設置していいか。この会で御承認いただければ進めたい。

○座長：

説明のあったメンバーで専門部会を設置するという事によろしいか。

(異議なし)

では専門部会の方で、具体的にどのようにやっていくかを進めさせていただく。

○A 委員：

調査対象は結局何になったのか。専門部会員以外の委員は、プロセスがわからないと、どう見守っていいのかわからない。

○F 委員：

調査に関して、1つは、小中学校のPTAの方々から具体的に現在問題になっていることとか、いろいろな話を聞いたらどうかという意見、もう1つは、ハンドブックには載っていない活動からピックアップして調査したらどうか、という意見があつた。

それに付随して、SNSの問題とか、子どもたちに役割を与えることとか、本当に問題

点があるのかといったことが出てきたと思う。

おおまかな調査対象程度はここでコンセンサスをとっておいてはいかがか。

○事務局：

調査対象として出たのは大きくは2点、1点はPTAで、もう1点はすでにある団体かと思う。活動団体として事務局が例示したのはハンドブックだが、掲載されていない活動についても、西原委員は主任児童委員としていろいろと御存じなのだと思う。

それ以外にもさまざまなご意見をいただいたが、ここではなかなかすべての議論はできない。2点あがったということを確認していただいて、後は専門部会ですすめる方法もあるかと思う。

○F委員：

市民の活動は広範なので、そこからどこを選ぶかは専門部会の話になると思う。市の子どもたちが抱える問題点にテーマを絞って一度報告書を出していて、そのうえで今回のテーマを決めたように判断している。そのあたりのことはどうなのか。

○A委員：

調査する団体が、どのように地域貢献・社会貢献しているのか、どういう組織があつて、そこに付随した形で子どもたちがどういう活動していて、そこに大人はどうかかかわっているのか、というのが分かると、地域がどのように子どもにかかわっているのかが見えてくるきっかけになるのではないか。

○F委員：

私が挙げたのはほんの一例だ多くの子どもたちと関わることによって誰かをつながり、つながることで次の行動がついてくる。誰かをピンポイントで救うのではなくて、いろんな子たちがいろんな形で大人と関わる。その中で、たぶんどこもみんな、見えなかった子供たちを引っ張り出すことに主眼を置いてやっている。いろいろなやり方があると思うので、そこを知りたい。何を目的にそれをやって、どういう成果を得て、どのあたりの助けが必要で、どういう子供たちがいるのか、話を聞いてみたい。

○座長：

そんなところでよろしいか。

○B委員：

今までは、学校だけとか、子どもだけとかを調査をしてきたが、地域との関わりを上手く結びつけることができれば、飛躍できるじゃないかと思う。

○A委員：

先ほどB委員が、機会を作るのが大人の役割といていた。いろんな状況を調査することで、どんな機会を作るといいかのかというところまで議論できればいい。

○F委員：

例えば、児童館の調理場で子ども食堂をやりたい思っても、お金を取ることはできな

いし、材料代等様々な問題で結局どこも行きづまる。そういう方々の想いを汲んで、今後の支援の進め方というようなところまで協議できたらすごくいいと思う。

○I 委員：

不見識で申し訳ないが、市内で子ども食堂をやっているとは全く知らなかった。

○F 委員：

3か所くらいでやっていて、ひとつは公民館事業の中で組織だってスタートした市民団体がある。いろんな業務の傍ら見るに見かねてという形もあるし、NPO等でもなく完全に民間でやっている。

以上にて終了。

◆各委員の情報交換

次回の協議会はあらためて調整する。